

第5回内国勸業博覧会のダンサー —カーマンセラ—

村山茂代

1. はじめに

1903(明治36)年に開催された第5回内国勸業博覧会(大阪)の電気不思議館で、アメリカのダンサー、カーマンセラ(Carmencella)が「電気火踊」を演じたと当時の新聞や雑誌は報じている。それらの記事によると、カーマンセラのダンスとアメリカン・モダンダンスのパイオニアの一人であるロイ・フラー(Loie Fuller 1862?~1928)のダンスには類似性が認められる。そこで本研究ではカーマンセラとフラーとの関連について明らかにする。カーマンセラのダンスは、日本で舞台効果を使った西洋人による最初のダンスであったが、カーマンセラについての研究は行われていない。そこで、第5回内国勸業博覧会に関する新聞や雑誌等の記録及びフラーに関する先行研究を参考として研究を進める。

2. カーマンセラのダンス

電気不思議館では、電気や光学を用いた当時の最先端の機器(無線電信機、X光線、胎児保育器、活動写真等)をアメリカより購入して展示した。また館内には天井や壁すべてを黒く塗った舞台が設けられた。その舞台でカーマンセラのダンスリサイタルが行われた。演目は1) モーニング、グロレー(朝の舞)、2) ナイト(夜の舞)、3) リレー(百合舞)、4) フワイヤ(火の舞)であった。

『風俗畫報』(明治36年9月30日)は「ナイト」について「身に金紫燦然たる衣を着け、胡蝶の如く舞ひ出でたるが、舞臺の後に屏風形の一大明鏡を立てたれば、舞ひつゝぞある一人の姿は、背に藪箇の姿を現じ、五彩の電燈の射映を受けて、見る眼、眩ゆし」と述べている。

この舞台に使用された電灯は14個であった。当時電灯は一般の過程に十分普及していなかったので、観客は眩しく感じたのであろう。

カーマンセラは「世界最大長」のコスチュームをつけて、鏡、煙、多彩な証明を駆使して踊ったのであった。観客の一人は、赤、紫、青の照明でコスチュームの色が変わるので、「外人は衣装をかえるのが早い」と感心したと語っている。

3. ロイ・フラーのダンス

1900年のパリ博では、カーマンセラと同様な試みがフラーによって既に行われていた。

アメリカ生まれのフラーは、子どもの頃から役者としてドラマに出演していた。1891年にフラー

はインド風の長いコスチュームを着て、ほの暗い照明をあびながら踊る役を演じた時、彼女はダンスへのひらめきを感じた。公演後フラーは女優からダンサーへ転向した。

1892年にフラーは4作品(The Serpentine, The Violet, The Butterfly, La danse blanche——後名The Lily Dance)をもってパリにデビューし、大成功をおさめた。

フラーは数百ヤードの絹布を使用したコスチュームをつけ、照明や種々の舞台効果を工夫して踊った。彼女のダンスは腕を大きく振り回したり、胴体をひねったり反らせたりするなどの動きによって構成されていた。それらの動きと共に彼女の髪も振り乱れて全身的な動きを更に強調した。観客はバレエとは異なった動きの新鮮な感動を受けた。特にアール・ヌーヴォーの芸術家達によってフラーのダンスは高く評価された。

パリ・デビューから8年後のパリ博では、フラーはフランス政府から博覧会での興行を委嘱され、フラーの劇場が新築されて、ダンス・リサイタルが行われた。

フラーはビジネスの面にも手腕があった。当時イギリスでは評判の高かった日本の川上音二郎と貞奴の一座と交渉し、フラーの劇場で共演した。

フラーはデビュー当時から彼女の作品を模倣するイミテーターに悩まされ、フラーは彼女の工夫したコスチューム、装置、小道具等の特許登録することで保護しようとしていた。

1909年頃ようやくフラーは学校をつくり弟子たちの指導を始めた。そして1912年頃には上級の弟子達がフラーの代表作「The Serpentine」及び「The Fire Dance」(初演1896年)を踊ることを許可された。

4. まとめ

カーマンセラについては全く不明であるが、1903年(明治36)年の第5回内国勸業博覧会には既にステージに立っていたことから、フラーの弟子ではなく、フラーのイミテーターの一人であったと推察する。

主要参考文献

- ・ Sally R. Sommer 「Loie Fuller」 『The Drama Review』 1975、及び「The Stage Apprenticeship of Loie Fuller」 『Dancescope』 77/7
- ・ The Virginia Museum 『Loie Fuller: Magician of Light』 1979
- ・ 片岡康子「モダン・ダンスの人物思想史小論」 『お茶の水女子大学 人文科学紀要』 1981
- ・ 『風俗畫報』 第275号、明治36年
- ・ 『大阪毎日新聞』 明治36年3月
- ・ 『大阪朝日新聞』 明治36年3月